

小児の発熱に対する留意点

先にも述べましたが、発熱はあくまでも症状です。また、熱の高さと病気の重さは一致しません。夏の、日射病や、熱中症は、点滴などによる急速な水分補給と体の冷却が必要ですが、それ以外の発熱で緊急を要するものは少ないものです。落ち着いて対処しましょう。

受診は
どんな時に

熱が高くても、比較的元気で普段と変わらず、咳や、はながでて風邪を疑わせるようでしたら、そんなに心配いりませんが、咳が続いたり鼻がキツくて眠れなかったり、乳児で哺乳できないときは、あまり熱が高くなくても受診した方がよいでしょう。

とにかく、普段と何かが違うとか、元気がないとかいうときは受診された方がよいと思います。

風邪を引いたときに
お風呂に入ってもいいの？

一般的に子どもの入浴についての科学的な見解はありませんが、40度までの温度が適当といわれています。

特に、風邪を引いた時の入浴については、あまりの高熱のときは、体力を消耗するので、入浴は避けるべきですが、あまり熱が高くなく、鼻の症状が主で、機嫌が良く、食欲もあるときは、汗を流す程度の入浴はかまいません。

風邪を引いているのに、風呂に入ったから悪くなったと考えるよりも、少し元気があり、あまり症状の強くないときなどは、少しぬるめのお湯で入浴し、さっぱりして就寝させることも悪いことではありません。子どもさんの状態をみて、入浴させるべきかどうか判断することが必要です。

水分を充分に
取りましょう

食欲があれば、普通に食事をとってもかまいませんが、発熱があるときは、発汗で水分が不足気味になります。食欲がなくても、水分は出来るだけとらせた方がよいので、冷たくてもかまいませんから口当たりの良いものを出来るだけとらせてください。

薬を
もらったら、
ちゃんと飲ま
せましょう

医療機関でもらわれた薬を、「食事をとらないので」とか、「ずっと寝ていたので」とかの理由でキチンと飲まされていない方がありますが、薬は決められた量を決められた回数飲まないとも効果が期待できません。1日3回飲む薬を2回しか飲まなかったり、少し元気になったので、1日で飲むのをやめたりでは、折角もらった薬も効果が半分以下になってしまいます。中途半端のみ方はかえって病気に良くないこともあります。特に小さな子どもさんの場合は、少し時間がずれても、1日3回なら3回、2回なら2回キチンと飲ませるようにしましょう。

解熱剤
を使うなら
アセトアミノ
フェンを

最近では、小児に対して安全性が確立されているものとして、解熱剤は、アセトアミノフェンの使用が勧められています。アスピリンやその他成人に主に使われる解熱剤などは、小児には使用しないことになっていますので、十分ご注意ください。お父さんやお母さんの薬を量を減らして使うようなことは絶対にやめてください。

京都府医師会

〒604-8585 京都市中京区御前通松原下ル TEL: 075-312-3671 (代表)
<ホームページ> <http://www.kyoto.med.or.jp> <E-mail> kma26@kyoto.med.or.jp
発行 SPRING 2002